

## 「VIVA☆CO」

棚ガレリで行った渋谷家の個展が「VIVA ☆ CO」です。このギャラリーは「棚サイズ」の小さいものであり、期間も一日と短かったにも関わらず、非常に渋谷家らしい「初個展」となりました。私たちは、まずギャラリーとその近くの部屋、双方に監視カメラを設置し、相互に監視し合えるようにしました。そして部屋の扉にはバリケードを築いて出入りを禁じ、渋谷家メンバーが内部を占拠して日常生活を営むのです。ギャラリーの来場者は、監視カメラと繋がったディスプレイを通じて渋谷家のドラダラとした日常を覗き見ることになり、同時に渋谷家メンバーからの視線に晒されることにもなります。これは、渋谷家が、自分たちの家の中ばかりでなく、あらゆる場をハックし得ることを示しています。渋谷家という家自体は場所性に規定されているとはいえ、そこで培われた独自のコミュニティは、ノマド的に遍在することが可能なのです。一方でそういったコミュニティの境界線、閉鎖と開放の範囲の恣意性もまた、監視カメラを通してしか関われないというコミュニケーション可能性(あるいは不可能性)を顕在化させる装置によって炙りだされています。また、タイトルの「VIVA ☆ CO」は、もともと棚ガレリのある建物「美学校」からの言葉遊び的な自由連想による発想ですが、共有や共同体といった、シェアを意味する「共= Co」の概念の礼賛を、無意識的に描き出してもいるでしょう。実際に展覧会では、渋谷家側と来場者との、言語を介さない、身振り手振りによるコミュニケーションが丸一日続けられ、コミュニケーションの根源的な愉悦と困難が同時に経験されることとなりました。また、クロージングイベントとしてアーティスト・グループ「Chim ↑ Pom」のリーダーである卯城竜太氏とのトーク・セッションも行われ、グループによるアート活動や芸術家の今後のあり方について意見を交わしています。

中島晴矢